



「ホスピス」と「緩和ケア」について考える



会長 駒ヶ嶺 泰秀

「ホスピス」という言葉を今では知らない人はいないかもしれませんが。しかし誤解して知っているつもりになっている人がいるかも知れません。

辞典で調べますと「客をもてなす」、宗教団体の宿泊所などの意。末期患者の苦痛を軽減し、心静かに死に臨みうるよう幅の広い介護に勤めるための施設。またはそのような活動。家族もホスピスの対象に含まれる、とあります。現在は施設よりもそのような活動を

さすことが多くなりました。

緩和ケアについては

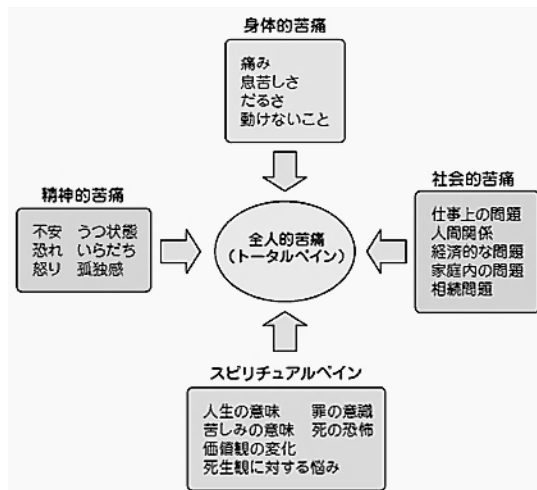
目的とした治療が有効でなくなった患者とその家族に対して行う治療。痛みなどを軽減し、心理面、社会面、精神面の支援により患者および家族のQOLを向上させる。(QOL quality of life 生活の質)

がんによる痛みについては

がんによる痛みはよく右図のように表現されます。「身体的痛み」は医学が発達し、取り去ってくれる時代になったように思います。他の三つの苦しみはどうでしょうか。身体的苦しみは医者を取り去ってくれますが、他の三つの苦しみはどうしたら癒されるのでしょうか。昭和の終わりごろまでは患者の病状を伝えるとき、家族が先に呼ばれて説明を受けたものでした。患者本人に病気ががんであること、深刻であること等、最期まで隠し通しました。最期まで隠し通した方の涙ながらのお話を伺ったことがあります。

ところが現在ではほとんどありのままを「告知」という言葉を使って教えます。そのときから三つの苦しみを味合うこととなります。私はそのとき自分自身が持っている「死生観」というものが生きてくるものだと思っています。

「府中がんケアを考える会」では「施設としてのホスピス」も大切だと考えています。どうしたら府中にもそれが可能か、模索していきます。「患者と家族で語り合う会」では他の三つの苦しみについて語り合うことによって、少しでも心のケアになることを願っています。



井上さん講演会 在宅医療を受けたいとき

井上 敬介さん 寿町クリニック・医療相談員



11月16日定例の患者会に合わせ、寿町クリニック・医療相談員の井上敬介さんの講演を受けました。

講演は会役員、稲津さんとの対話で始められました。

☆ 訪問診療を知りたい

2週に一回くらい医師に同行して訪問している。前職で医療事務、高齢者住宅をやり、施設が必要と感じていたが在宅へ行き出したのでそのことを考えるようになった。その後寿

町クリニックに移った。現在の在宅患者はがん4割、他には認知症と脳疾患関係が多い。

☆ 悩んでいる人も多いと思うがどのようにして患者さんは来ますか。

自宅で過ごしたいという人は病院の在宅相談室、ケアマネジャー、ホームページなどを通して依頼を受けている。今後はさらに地域の中で相談を受けやすいように、地域包括センターとも連携して受け入れたい。

☆ 地域包括との情報共有が出来ればと思う。

ケアマネジャーや患者が、薬の判断等で困っていることを医者に言いにくいときがある。相談員は患者、ケアマネジャーと医者をつなぐ役割を担っている。

☆ 具体的なケースとしてはどうですか

病歴、自宅介護状況について聞いた上で、在宅療法を行うにあたって治療方針や延命するか否か、食事が摂れなくなったときどうするか、麻薬やステロイド使用について家族と話し合い問題を共有している。病院とも連携している。在宅で最期を迎えることが出来る。

☆ やるべきことがわからない場合は

本人ががんで娘が海外のケースでは、株や現金の扱いについても話します。信託の話もします。

☆ 金銭的負担はどうか。

往診は負担が掛かる。24時間体制で1割負担の場合、一ヶ月6,100円の往診料、薬局も介護保険で「居宅療養管理指導」として一回の訪問500円で薬の配置、指導も行っています。

往診医との連携も行っています。

☆ 注意すべきところは

医者との相性があるので先生が気に入らないときは柔軟に考えれば良い。ケースによっては協力医院へ紹介したり、調整を行っている。

☆ 家族がいる場合と一人の場合は

家族がいるのは理想だが、家族の負担をどうするかが大事。家族の思いは引き上げるようにしている。病院に連れて行ったり、患者が医師に伝えにくい事を代わりに伝えたりすることで先生との橋渡しをしています。

(文責 武智)



がんケア豆知識 第2回 「がんの早期発見」

訪問看護師 宮田乃有

第1回で、がんは「腫瘍」のうち悪性のものを指す、とお伝えしました。
‘がん’または‘悪性腫瘍’と聞くと、「死につながる怖い病気」と感じる人がいる一方で、「自分は大丈夫だろう」と思う人も少なくありません。現在、がんは日本人の2人に1人がかかるといわれています。また、日本人の死因の第1位でもあり、約3割の方ががんで亡くなっているという状況です。つまり、ご自身だけでなく、家族あるいは友人としてなど、誰もが何らかのかたちでがんに関わる可能性をもっています。

【症状がなくても、健康診断・がん検診を受けましょう】

特に症状がなくても、年に1回は健康診断を受けるようにしましょう。市が行なっている健診・検診は無料で受けることができます。

がん検診は万能ではありません。早期発見が難しいがんや、発見しても治療の難しいがんもあります。しかし、早期発見することで治療効果の高いがんもあり、5年、10年と過ごせる方がいることも確かです。

【症状があったら早めに受診しましょう】

下記のような症状があるときは早めに医療機関を受診し、がんによる症状なのか、別の病気によるものなのか、様子を見てよいのかを鑑別しましょう。

①体重の減少

がん細胞はエネルギーの消費が大きいため、特にダイエットなどをしておらず、いつもどおりの生活をしていても体重が減ります。

②便通の異常

便秘と下痢の繰り返しや、便に血が混じる、黒い便が出るなどときは、受診して原因を確認しましょう。

③貧血の進行

貧血が進むと、顔色が青白い、動くと息切れがする、疲れやすいなどの症状がでできますが、ほとんど自覚症状がないこともあります。

④ほくろの異常

皮膚がんのように足の裏に出来るほくろのようなものや、形がいびつなもの、ほくろの色にムラがあるものは注意が必要です。

☆今回のポイント

年に1回は健診・検診を受けて、
ご自分の体をケアしていきましょう。



<参考>

- ・「e-クリニック がんの早期発見」
http://e-clinic21.or.jp/modules/contents02/index.php?content_id=8
- ・「最新 がん統計」
<http://ganjoho.jp/public/statistics/pub/statistics01.html>

第12回ボランティアまつりに参加して

荒川 京子

11月30日、会の名称を変えてから初めての参加でしたが、10時から4時まで役員が相談員を引きつけました。グリーンプラザ5階の場所は従来どおりの一番奥で、このコーナーまで大勢の人が足を運んでくるか、いつも気になる場所でした。

今回は図らずもスタンプラリーのチェックポイントの場所として指定されていたので、終日スタンプを求める多くの人に立寄っていただきました。思いがけない状況に私たちも笑顔が絶えませんでした。

用意していた会報50部もたちまち配布しつくし、急遽100部追加が用意されました。

「医療相談」、「療養相談」のコーナーを設け、看護師のお二人に担当していただきました。

駒ヶ嶺会長は蔵書からがん関連の本を10数冊持って来られていただきました。50円の破格値に皆さん喜んでお買い上げいただきました。

今回はスタンプラリーのチェックポイントが幸運であったのか、幅広い年齢層の人たちにこの会の会報、入会案内が配布されました。そのことでひとりでも多くの方がこの会のことを話題にし興味を持ってくださることを期待しています。

この会にとっては充実した一日となりました。



ネットで調べてみよう お役立ち情報満載

パソコンが良く分からない人も自宅にあれば調べて見ましょう。検索欄に下記の名称を入れれば調べたいことが出てきます。(間違っても壊れることはないのご安心を)

全般的なことが知りたい

がん情報サービス(がんセンターが運営しています。)

がん情報サイト(海外の情報と、抗がん剤が詳しい。)

がんサポート(雑誌「がんサポート」のネット版、わかりやすい記事、体験記が特徴。)

治療費について知りたい

がん治療費.com(定型治療の費用が計算できる。)

緩和医療について知りたい

日本ホスピス緩和医療協会

会費未納の方をお願い 振込用紙を同封しています。お振込みをお願いします。

編集後記 8月の患者会に出席いただいた稲城の方がフェイスブックをたちあげました。「稲城がん予防を推進する会」で検索してみてください。「がんサポート」誌11月号7大がん特集、原子力工学者と放射線医師の対話「被ばく列島」面白かったです。

武智

発行 府中がんケアを考える会・会報編集部

連絡先 183-0004 東京都府中市紅葉丘3-33-4 駒ヶ嶺 泰秀 042-302-2607

Mail: ktakechi@fa2.so-net.ne.jp